



# 感染症拡大防止ガイドライン

本ガイドラインは感染拡大のリスクを鑑みてイベントを開催していくための  
弊社の指針としてまとめております。

我々フジヤマコムは、イベントの規模やコンテンツを考慮し、  
イベントにおける新様式を関係者のみなさまと共に作り上げていきます。

---

## P1. 目次

## P2. A: 制作段階

## P3. B: 来場者向け（事前告知・入場時注意事項）

## P4. C: 運営スタッフ向け

## P5. D: 運営業務

## ○感染症対策における情報精査

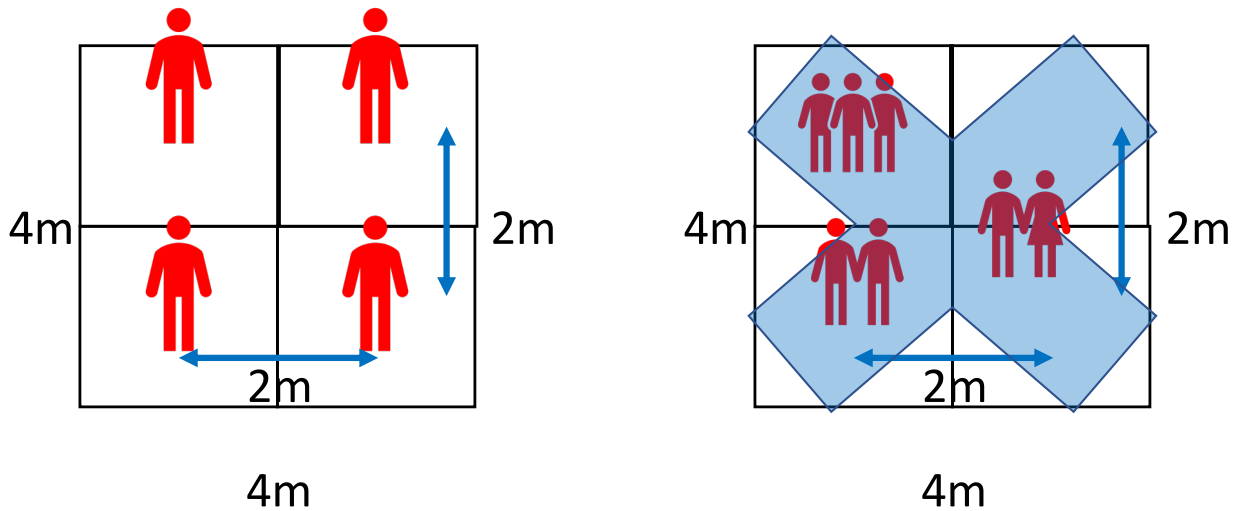
- ・各地域感染状況に関する正確な情報源の確保する。  
ex. 政府広報、各自治体のHP

## ○延期及び中止等の規約

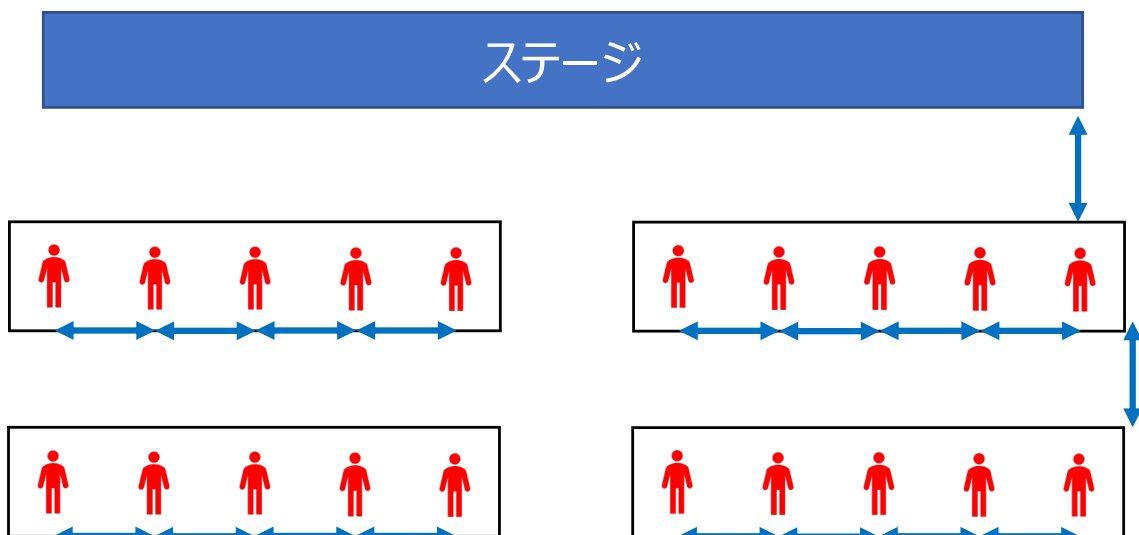
- ・延期、中止判断の基準を定める。  
ex. 政府や各自治体から自粛要請に対する対応

## ○密集を回避する施策

- ・スタッフ及び来場者が密集とならないよう、方策やレイアウトを工夫する。



- ・政府推奨の2m間の確保（自分を中心に4m確保）し、ソーシャルディスタンスを遵守する。  
※立ち止まり滞留する場合
- ・ステージ観覧の場合、一席空けて座るよう注意喚起を促す。



### ○参加者への協力、注意、参加禁止事項の周知

- ・ イベント参加者に対して、来場前の協力要請事項として、参加自粛を求める条件を、SNSやホームページにて事前に告知を行なう。

#### 【協力要請事項】

- a. 来場前の検温
- b. マスク着用、もしくは咳エチケットを必須とする
- c. 来場時の手指消毒の徹底
- d. ソーシャルディスタンスの確保
- e. 長期滞留を行わない
- f. 厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)のダウンロード

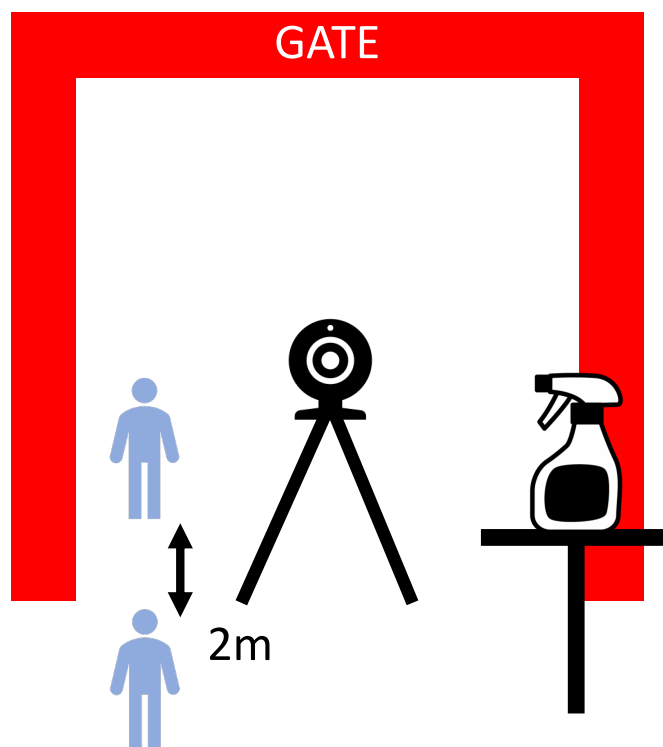
#### 【参加禁止事項】

- a. 発熱がある場合（37.5℃以上）
- b. 発熱以外に症状が見受けられる場合
- ex. 咳・咽頭痛・呼吸困難・全身倦怠感・鼻汁・鼻閉・味覚、嗅覚障害  
眼痛・結膜充血・頭痛・関節及び筋肉痛・下痢・嘔吐・その他自覚症状
- c. 新型コロナウイルス感染者（無自覚感染者含む）と過去1週間以内に濃厚接触がある場合
- d. 保健所や医療機関など、健康観察下にある場合



### ○イベント来場時の協力、注意事項

- ・ フリーエントランスのイベントなどは、出入口ゲートを設置し、参加者のサーモグラフィによる検温、手指消毒を行なう。  
また、人数制限に満たされた場合、入場制限を速やかに実施する。
  - ・ 厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)の導入を入場ゲートに掲示して推奨する。
  - ・ 待機列に並ぶ際は、ソーシャルディスタンスを確保すると共に、なるべく空いている列へ並ぶ。
  - ・ 2名以上で行動する際、  
対面ではなく並列して座るなど、  
飛沫感染のリスクを考慮する。
  - ・ 飲食やお手洗いの前後では、手洗いを徹底する。
  - ・ 回し食べ、回し飲みは避ける。
  - ・ 大人数での長期滞留は避ける。
  - ・ 混雑が予想される際、  
入場者数及び、滞在時間の制限等を行う。
- ※入場制限を実施する目安は、  
3㎡/人を超える混雑となる場合



### ○健康状態管理の徹底

- ・出勤前の検温、体調管理を徹底する。
- ・下記条件に当てはまるスタッフの参加は控える。  
※37.5°C以上の発熱・咳・咽頭痛・呼吸困難・全身倦怠感・鼻汁・鼻閉・味覚、嗅覚障害  
眼痛・結膜充血・頭痛・関節及び筋肉痛・下痢・嘔吐・その他自覚症状
- ・スタッフの会期中の健康チェック。  
体調が優れないスタッフが発生した場合は、速やかに帰宅指導を行なう。

### ○運営業務に関する注意事項

- ・マスク、手袋の着用必須（ブース内は熱くなるので、熱中症にはご注意ください。）
- ・ブース内には必ず消毒液を設置し、定期的な使用ができる、補充ができる環境を整備する。
- ・体調管理シートを作成し、検温をはじめとした定期的なスタッフの健康状態チェックを実施する。  
※発熱等々、健康状態に異常が見受けられる場合は、速やかに帰宅指導を行う。
- ・調理行為や接客業務をはじめ、人と触れ合う際はいかなる時にも手指消毒を徹底する。
- ・対面で人との接触が予想される箇所には、アクリル板やビニールカーテンを設置する。
- ・現金の取り扱いはなるべく避け、オンラインチケットの販売、キャッシュレス決済を推奨する。
- ・接客の際は、つり銭トレーを用いるなど、お客様との接触を控えるマニュアルで行なう。
- ・スタッフの人数は密集空間を作らないよう、必要最低限の人数に設定する。
- ・声を出す呼び込み行為などはせず、目視確認できるPOPなどを用いる。
- ・混雑が予想される場合、整理券を配布するなど客数の制限を設け、混雑緩和を促す。
- ・待機列ができた際はソーシャルディスタンスを考慮して列整列を行なう。  
※誘導スタッフは声を出さなくてもいいよう、あらかじめPOP掲示を行ない、来場者が目視確認で並べるよう工夫する。
- ・窓口は間隔をあけて複数設けるなど、ソーシャルディスタンスへの配慮を心がける。

## ○消毒の徹底

- ・ 出入口ゲートをはじめ、お手洗いや場内複数箇所に消毒液を設置し、来場者が常時手指消毒が行える環境を整える。
- ・ トランシーバーや機材、備品などはスタッフ間で共有せず、占有できる環境を整える。  
※使用後は必ず消毒する。
- ・ 一定時間毎に、人がよく使用する場所、箇所の消毒及び清掃業務を徹底して行なう。  
ex. お手洗い近辺や、来場者休憩所など

## ○飛沫感染リスクの緩和

- ・ 客席や控室には対面にパーテーションを設ける、あるいは対面にならないような並列レイアウトを組み、感染リスクを抑える。
- ・ 大声での呼びかけ等は一切禁止とする。  
ex. 拡声器の使用や、目視確認できるPOPの掲示、場内放送などで代用

## ○救護室

- ・ 救護患者が発生した場合、携わるスタッフは手指消毒の徹底、マスク、手袋、フェイスシールドの着用を義務とする。
- ・ 新型コロナウイルスに感染の恐れがある場合、速やかに管轄の保健所の指導を仰ぐ。

## ○喫煙所

- ・ 密集空間を避けるべく、ソーシャルディスタンスによる定員を設け、場合によっては入場を制限する。
- ・ 常時換気ができるよう、テントの半分を開放するなど工夫する。